第２学年　社会科（地理的分野）学習指導案

１　単元名　　地理的分野　日本の諸地域「中部地方」

２　単元の目標

・九州地方～近畿地方の学習（既習事項）で学んだ、地理的な見方・考え方を中部地方の学習に生かすことができる。　（思考力、判断力、表現力等）

・中部地方（東海・中央高地・北陸）の産業（農業・工業）の特色と変化の様子を、自然環境、歴史、伝統、交通、地域と関連付けて多面的・多角的に考察でき、他者との関わりの中で考えを深め、理解したことを白地図の上で表現したり、自分の言葉で説明したりすることができる。

（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）

・「新潟市の農業」の魅力を再発見するため、思考ツールやジグソー法を活用しながら、主体的に追究することができる。　（学びに向かう力、人間性等）

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○中部地方（東海・中央高地・北陸）の位置、自然環境（地形・気候・海流　など）を地図上で理解している。また、太平洋側の気候・中央高地の気候・日本海側の気候の雨温図から、それぞれの特色を比較し、読み取っている。 ○中部地方（東海・中央高地・北陸）の産業（農業・工業）に関する資料を適切に読みとり、比較・関連づけて活用している。	○中部地方（東海・中央高地・北陸）の産業（農業・工業）の特色や変化を、自然環境（地形・気候・海流　など）、歴史、伝統、交通、地域との関わりと関連づけ、表現している。 ○新潟市の農業従事者の高齢化と減少を資料から読み取り、その現状の中で、魅力ある農業にするための方策を思考ツールやジグソー法を活用し、提案している。	○根気強く、学習課題に取り組もうとしている ○他者との関わり（ペア学習・小集団学習）を積極的に行い、自分の考えを発表し、他者の意見をしっかり聞くことを通して、自分の考えを再構築しようとしている。

４　単元の構想

（１）　生徒について

私たちが生活する新潟県を含む中部地方。日本の地理的分野に入り、九州地方、中国・四国地方、近畿地方、そして、４つ目の地方となる。中部地方は身近な地方ではあるが、それぞれの県の観光スポットや産業の特色など、知らない生徒が多い。かろうじて新潟県と接し、家族旅行でも行くチャンスの多い長野県や富山県などは、中部地方の中にある他県に比べれば知っている内容も多少あるように思う。

今年、新潟県大会を勝ち進み北信越大会に数名が出場した。その機会に「北信越大会」には、どの県の代表者が出場するのか確認し、新潟県を含む地方の呼び名をおさえた。また、「信越地方」は長野県と新潟県、群馬県を加えると「上信越地方」、山梨県を加えると「甲信越地方」など、いろいろな区分があることも紹介した。身近な内容は生徒にとって関心が高く、生徒の反応もよかった。このことから身近な新潟県を含む中部地方は、生徒にとって関心が高い地方と考えられる。新潟県を含む北陸と中央高地、東海を比較しながら、自然環境や産業の特色を、他者との関わりや ICT を効果的に活用しながら、深い学びに繋げていきたい。

（２）単元について

本単元は、中部地方の産業を中核に考察していく。中部地方の三つの地域（東海・中央高地・北陸）は、それぞれ異なる自然環境や交通・通信、伝統、歴史、地域との関わりなどを生かしながら、特色ある産業が発達してきたことを多面的・多角的に考察していく。

中部地方は、近畿地方と関東地方に挟まれた位置にあり、太平洋に面する東海、内陸で山がちな中央高地、日本海に面する北陸に分けることができ、地域ごとに自然環境の違いが見られる。

自然環境の違いは、特色ある農業を生み出し発達してきた。東海では温室メロンや電照菊、茶、中央高地では高原野菜や果樹、北陸では稲作が見られる。農業の特色をおさえる中で、既習事項と関連させ、宮崎平野・高知平野の促成栽培と高原野菜、電照菊の抑制栽培を比較し、お茶の栽培が行われているシラス台地と牧ノ原台地の土壌の共通性を確認したい。

それぞれの地域の工業にも違いが見られ、歴史や伝統が感じられる。東海では繊維機械から自動車産業が発達し、日本最大の中京工業地帯の主幹産業に成長した。中央高地では養蚕業から精密機械工業へと化学繊維の普及により変化した。北陸では冬場の雪に閉ざされた生活から伝統産業、地場産業が生まれ、現在に受け継がれてきた。身近な新潟県の伝統産業・地場産業の商品や分布にも注目したい。

特色ある産業の発達には、中部地方が近畿地方と関東地方に挟まれた位置関係にあることに加え、高速道路網などの交通網が発達し、物流が促進されたことが大きく影響していることも関連づけておさえたい。

今回、中部地方の単元のまとめをした上で、発展課題として新潟市の農業を取り上げ、「新潟市の農業を盛り上げていく（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ための方策」を４つの視点（　A 農業従事者　B 新潟市民（消費者）　C 新潟市役所（行政）　D お店・レストラン（企業））から考えさせたい。既習事項として、日本の産業全体に占める第一次産業の割合が大きく低下してとることを取り上げたとき、生徒は大きな驚きがあった。その驚きを受け、第一次産業の中心をなす農業をどのようにしたら、盛り上げていくことができるか、身近な新潟市に注目して考えさせたい。

〇〇中学校は県内一番の繁華街を学区にもち、学区にはほとんど田畑を見ることができず、農業を身近に感じることはできない。だからこそ、授業を通して新潟市の農業に目を向けさせることは意義のあることだと思う。また、１０月２、３日に職場体験を実施し、キャリア学習を進めている。将来の職業選択として農業従事者と答える生徒がほとんどいない現状からも、この授業を通して農業に関心をもつ生徒が増えてくれればと感じる。

（３）指導の工夫

・学習課題に応じて思考ツールを選び、効果的に活用したい。思考ツールは情報を可視化でき、自分の考え方をメタ認知することができる。
・インターネットや新聞記事、資料集、文献など、各種資料を活用して調べ、他者との意見交流を通じて互いの考えを吟味・検討し、課題解決に向けて思考を深化させたい。
・多様な視点から学習課題の解決にせまることができるよう学習形態を工夫したい。ペア学習や小集団学習など、場面に応じた意見交流の形態を取り入れたい。
・生徒が学習課題の解決を進めていく中で、対立・合意、効率・公正の視点や地理的な見方・考え方を大切にしていくよう助言し、社会的事象を多面的・多角的に捉えることができるよう働きかけたい。
・ICT を効果的に活用し、生徒の思考のズレを生む（思考を揺さぶる）新聞記事や写真、グラフ、図、表など、視覚に訴える教材を提示できるようにしたい。
・自分の考えを説明する力を養う必要があることから、既習事項を活用しながら自分の言葉で表現し、他者に伝える（発表する）活動場面を意図的に取り入れていきたい。

・自己評価や相互評価を有効に活用し、次の学びに繋げさせたい。

５　単元（題材）の指導計画

時	学習のねらい（○）と主な学習内容（・）	評　価			
		知・技	思・表	主	評価規準
1	**【中部地方をながめて（中部地方の自然環境）】** **○中部地方の９県の位置、３地域区分と地形、気候の特色について理解する。** ・中部地方の白地図に、主な地形、県名、県庁所在地名（政令指定都市）を工夫して書き込み、表現する。 ・雨温図から３つの地域の気候を比較し、特色を読みとる。 ・新潟から名古屋までの新幹線・高速道路のルートを白地図に書き込む。	○		○	・新潟県を含む中部地方に関心をもち、主体的に発言や作業をすることができる。 ・中部地方の白地図に、県名と県庁所在地を正しく書き込むことができる。 ・雨温図の気温、降水量のグラフの変化から、太平洋側の気候、中央高地の気候、日本海側の気候を見分けることができる。
2	**【特色ある東海の産業】** **○東海の産業の特色を理解する。** ・いくつかの年代の「中京工業地帯の工業生産額グラフ」から機械工業、特に輸送機械の割合の変化を読みとる。 ・静岡県の牧ノ原台地では、なぜお茶づくりが行われるようになったか、気候と地質に注目して考える。 ・施設園芸農業（電照菊）が盛んに行われる背景を、気候と交通網に注目して考える。		○		・中京工業地帯の工業生産額が日本の中で一番多いこと、機械工業（輸送機械）の割合がとても多く約７割をしめていることがわかる。 ・牧ノ原台地の気候、土地の特徴を生かし、お茶栽培がさかんになったことをシラス台地との共通性を確認しながら理解する。 ・抑制栽培と促成栽培を比較し、栽培方法の違いを、自分の言葉で表現することができる。
3	**【特色ある中央高地の産業】** **○中央高地の産業の特色を理解する。** ・既習事項の扇状地の特色と土地利用を関連づけ、自分の言葉で説明する。 ・諏訪盆地の産業の変化を１９１９年と２００８年の地図を対比し、土地利用の変化を読み取る。 ・「東京都中央卸売市場に入荷するレタスの量」（グラフ）から長野の生産・出荷の特色を読み取る。		○		・既習事項である扇状地の特色を理解した上で、土地利用がどのように変化したか、歴史的要因と関連づけ、自分の言葉で表現することができる。 ・「東京都中央卸売市場に入荷するレタスの量」（グラフ）から長野の生産・出荷の特色を読み取り、自分の言葉で表現することができる。
4	**【特色ある北陸の産業】** **○北陸の産業の特色を理解する。** ・新潟県は「酒蔵数日本１位」、「米菓生産額日本１位」の資料を用いて、新潟県の農業の特色を考える。 ・おとぎ話「鶴のおんがえし」を参考に、雪国で伝統産業、地場産業がどのように発展したか、既習事項の江戸時代の問屋制家内工業と繋げて考える。		○		・北陸は日本を代表する水田地帯であることを理解する。 ・北陸では、雪におおわれて農業ができない冬の期間を利用し、伝統産業や地場産業が成長したことを理解する。 ・北陸にある主な、伝統産業や地場産業の都市、商品がわかる。
5	**【東海・中央高地・北陸のまとめ】** **○東海・中央高地・北陸の産業（農業・工業）の特色を、白地図に工夫してまとめる。** ・東海・中央高地・北陸の特色ある産業（農業・工業）を「キャッチコピー」で表現し、自分の言葉で説明する。 ・小集団活動で自分の考えを発表し、他者の発表を聞いて自分の考えを深める。	○			・東海・中央高地・北陸の産業（農業・工業）の特色を、白地図に工夫して表現し、まとめることができる。 ・地域の特色を理解し、キャッチコピーを生み出し、他者に説明することができる。 ・小集団活動に積極的に参加し、自分の考えを発表することができる。

6	**【発展課題①　新潟市の農業】** **〇新潟市の農業の特徴（魅力）は何か。資料や映像から読み取る。** ・新潟市は米以外にどのような農作物の生産や畜産がどこで行われているか、白地図に行政区（８区）ごとに分類して書き込む。 ・「農業応援芸人チカポン新潟探農」（映像１５分）を視聴し、新潟市の農業の特色（魅力）を自分の言葉で表す。	〇			・新潟市は米以外にどのような農作物の生産や畜産がどこで行われているか、白地図に行政区ごと（８区）に分類して書き込むことができる。 ・「農業応援芸人チカポン新潟探農」を視聴し、新潟市の農業の特色（魅力）を自分の言葉で表すことができる。
7 本時	**【発展課題②　新潟市の農業】** **〇新潟市の農業の特色（魅力）、課題を理解した上で、「田園型政令指定都市」として、農業を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ための方策を考える。** ・新潟市の農業を盛り上げるため、A農業従事者　B消費者　C行政　D企業の４つの立場から、具体的な方策を提案する。 ※思考ツールやジグソー法を活用する。		〇	〇	・新潟市の農業を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ため、A 農業従事者　B 消費者　C 行政　D 企業の４つの立場から、具体的な方策を提案することができる。 ・小集団活動に積極的に参加し、互いの意見交換を通して、自分の考えを再構築することができる。

６　本時の計画（７時間目/全７時間）

（１）　本時のねらい

・「新潟市の農業」の特色（魅力）、課題を理解した上で、「田園型政令指定都市」として「新潟市の農業」を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ために、４つの立場　**Ａ農業従事者　Ｂ新潟市民（消費者）　Ｃ新潟市役所・区役所（行政）　Ｄお店・レストラン（企業）**から具体的な方策を提案することができる。　**（思考・判断・表現）**

・「新潟市の農業」に関心をもち、主体的に追究することができる。　**（主体的に学習に取り組む態度）**

（２）　本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	■評価　・　〇留意点
（導　入）１０分 ●ベートーベン交響曲第６番「田園」を視聴	授業開始３分前から授業開始のチャイムが鳴るまで音楽（交響曲第６番「田園」）を流す。 Ｔ１　授業開始前に流れていた曲を知っていますか。 Ｓ１　音楽で聴いた。田園だ。ベートーベンの曲だ。 Ｔ２　この曲からどんな情景をイメージしますか。 Ｓ２　穏やか。広がりを感じる。 Ｔ３　この曲はベートーベンが作曲した交響曲第６番「田園」です。広大な田畑の風景を表しています。 Ｔ４　新潟市は人口７７万人を抱え、広い田園（田畑）地域と多くの人々が生活する居住地域や商業用地が近くにあり、共存・共栄している「田園型政令指定都市」です。全国的に珍しい都市です。 今日は、「新潟市の農業」に焦点をあて学習します。本時の学習を終えた時に、「新潟市の農業」への関心が高まってくれればと思います。	〇音楽を流すことで、生徒の緊張をやわらげると共に、授業のスムーズな導入に繋げていきたい。 〇曲名が生徒から出てこない場合、曲名と曲の情景を説明する。 〇新潟市は、政令指定都市でありながら、田園が広がる珍しい都市であることを強調したい。
●「新潟市の農業」に関わる問題を解答して確認 →ペアで意見交流	Ｔ５　「新潟市の農業」に関わる３つの問題をロイロノートで送信します。問題を解答してください。 Ｓ３　問題を解答する。	〇問題３題（シート）を２回に分けて送り、両方とも、以下のよ

	T６　ペアで解答を比較してみよう。 S４　タブレットを見せ合いながら他者と比較する。 T７　大型モニターを使いながら、問題の解答・説明を行う。 T８　新潟市の農家数、農業従事者、農業の担い手はどのように変化しているか、自分の予想を記入するシート（問題）をロイロノートで送ります。解答してください。 S５　問題を解答する。 T９　ペアで解答を比較してみよう。 S６　タブレットを見せ合いながら他者と比較する。 T10　大型モニターを使いながら、問題の解答・説明を行う。 T11　**新潟市の農業従事者が減少し、高齢化がどんどん進んだら、農業はどうなってしまうのだろうか。将来への心配はないだろうか。** S７　心配。このままだとまずい。 何かしないとダメじゃない。 農業をする若者が増えないと。 これから輸入にたよるのかな。	うなところに注意して行う。 解答時間は１分程度とし、時間をかけない。 解答をペアで比較する時、解答の根拠も互いに言わせる。 他者との意見交流で解答の変更も認める。 ○本時の学習課題に繋げるため、生徒に強い問題意識をもたせる問いかけになるよう心がける。（生徒の追究するエネルギーを高めさせる）
（展　開）３２分 ●個人で課題を追究する（８分） ●同じ立場同士で意見交流（５分） ●小集団で意見交流し、よりよい方策をまとめ、提案する（１５分）	**【学習課題】** **◎「新潟市の農業」を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ために、４つの立場 A 農業従事者　B 新潟市民（消費者）　C 新潟市役所・区役所（行政）　D お店・レストラン（企業）から具体的な方策を提案してみよう。** T12　**A 農業従事者の立場　B 新潟市民（消費者）の立場　C 新潟市役所・区役所（行政）の立場　D お店・レストラン（企業）**のそれぞれの立場にスポットライトを当て、「X チャート」を使い、班ごとに分担して方策を考えよう。 T13　班ごとに A～D の４つの立場を分担してください。 T14　付箋と X チャート（模造紙）を各班に配布する。 S８　資料を参考に、方策を考え付箋に書いていく。 T15　各班の同じ立場（A～D）の人が、指定された場所に集まり意見交流しよう。 S９　４つの指定された場所に集まり、意見交流する。 T16　個々に書いた付箋（方策）を、１つの「X チャート」（模造紙）に貼り、班ごとに意見交流し、よりよい提案を作り上げよう。	○生徒の学習意欲を喚起するため、各班の提案内容は「新潟市農林水産部農林政策課」に紹介することを伝える。 ○方策を提案するために参考となる資料はロイロノートで全員に送信する。 ○同じ立場の者同士が集まり、活発に意見交流できるように支援したい。

●抽出した２班の発表 発表２班×２分（４分）	S10　班内で意見交流し、「X チャート」（模造紙）に付箋を貼り完成する。 T17　班長は完成した「X チャート」（模造紙）を写真で撮影し、ロイロノートの提出箱に提出してください。また、「X チャート」（模造紙）を黒板に掲示してください。 T18　指名した２班から発表してもらいます。 T19　指名した２班だけ、「X チャート」を大型モニターに映し出す。 S11　班長が X チャートの内容を発表・説明する。	○異なる立場で対立する方策が出たら付箋の色（赤）を変える。 ○ロイロノートで、７班分の「X チャート」を全員で共有する。 **■「X チャート」 個別の担当部分の方策（思考・判断・表現）**
（終　末）８分 ●本時のまとめをする （４分） ●振り返りをする（４分）	**【まとめ】４つの視点からの方策** **<u>A　農業従事者の立場では</u>** **・若手の育成　　・機械化を進め、働き方を改革** **・品質・味の向上　　・生産物のブランド化** **・農業の体験会を企画　・６次産業を生み出す** **・直売所の開設** **<u>B　新潟市民（消費者）の立場では</u>** **・ランチで地元食材を利用（地産地消）** **・地元食材を家庭で利用（地産地消）** **・農業体験に参加** **<u>C　新潟市役所・区役所（行政）の立場では</u>** **・新規農業従事者の育成** **・新規農業従事者の支援** **・大都市に新潟市のアンテナショップを設置** **・「地産地消」のＰＲ** **・農業体験できる施設を造る** **・生徒への新潟食材に対する啓発活動** **<u>D　お店・レストラン（企業）の立場では</u>** **・地元食材を使った商品開発、メニューづくり** **・生産者が見える商品の販売（安心を届ける）** T20　各班の X チャートの共通性や注目ポイントを紹介する。 T21　「振り返りシート」を記入してください。 本時の振り返りと、**新潟市の農業を盛り上げるために、これから自分は何ができるか、提案してみよう。** S12　「振り返りシート」を記入し、提出箱に提出する。	○西蒲区で生まれた色や大きさ、形が特徴のある珍しい野菜を「にしかん　なないろ野菜」としてブランド化して販売していることを、実物の野菜を見せながら紹介する。 ○X チャートを参考に、自分ごととして、これから何ができるか、生徒に考えさせたい。 **■「振り返りシート」** **（主体的に学習に取り組む態度）**

（３） 評　価

・「新潟市の農業」の特色（魅力）、課題を理解した上で、「田園型政令指定都市」として、「新潟の農業」を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ために、４つの立場から具体的な方策を提案することができたか。　（思考・判断・表現）

・「新潟市の農業」に関心をもち、主体的に追究することができたか。また、新潟市の農業を盛り上げるために、自分はこれから何ができるか、提案することができたか。　（主体的に学習に取り組む態度）

（４）板　書

田園型政令都市新潟

【課題】
新潟市の農業従事者は減少し、高齢化が進んでいる。

↓

【本時の学習課題】
◎「新潟市の農業」を盛り上げる（農業従事者が増える、農業生産額が増える、農業従事者の収入が上がる）ための方策を提案しよう。

＜４つの視点＞

A　農業従事者

B　新潟市民　（消費者）

C　新潟市役所　（行政）

D　お店・レストラン（企業）

１班

２班

３班

４班

５班

６班

７班

◎「新潟市の農業」を盛り上げるためにこれからあなたは何ができますか。

１１月９日（木）